

平成 28 年度病害虫発生予察情報 特殊報 第 2 号

平成 28 年 6 月 6 日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 インパチェンスべと病 *Plasmopara obducens* (J. Schröter) J. Schröter

2 発生作物 インパチェンス

3 発生経過

- (1) 平成28年4月、広島県内の生産者施設で、インパチェンス（品種：カンタービレ）において、葉の黄化および葉裏に白色のかびを生じる症状を示す株が認められた（図1及び2）。
- (2) 広島県総合技術研究所農業技術センター生産環境研究部で診断した結果、形態的特徴から*Plasmopara obducens* によるべと病であることが判明した。
- (3) インパチェンスべと病は、平成22年6月に国内で初めて確認されており、平成24年に島根県、平成26年に神奈川県から特殊報が発表されているが、広島県内での発生確認は初めてである。

4 形態および発生生態

- (1) 葉が黄化し、葉裏に白色のかびを生じる。
- (2) 病徴が進展すると、落葉、株の枯死に至る。
- (3) 病原菌は葉裏の気孔から分生子柄を伸長し、樹状に分岐後、その先端部に卵型の分生子を形成する（図3）。
- (4) 宿主植物は、インパチェンスを含むツリフネソウ属の植物とされる。

5 防除対策

- (1) 発病株は速やかにほ場外へ持ち出し、土中に埋没処理する。
- (2) 葉が濡れていると感染を助長するため、頭上灌水は避ける。
- (3) 本病害を対象として農薬登録されている薬剤はないため、上記の耕種的防除を徹底する。



図1 株の黄化症状



図2 葉裏に生じた白色のかび



図3 病原菌

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所・西部病害虫防除所（ 東広島市八本松町原 6869

電話 082-420-9662 ）

広島県立総合技術研究所

農業技術センター生産環境研究部（ 東広島市八本松町原 6869

電話 082-429-0521 ）

農林水産局農業技術課

（ 広島市中区基町 10-52

電話 082-513-3585 ）

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>